

式 辞

本日、博士、修士の学位を授与された皆さん、学位記の授与おめでとうございます。そして、皆さんを支えてこられたご家族の皆様、および関係者の方々にも心からお祝いを申し上げます。

研究型大学院大学の本学を修了する皆さんには、新しい時代の先駆者として社会を牽引する力が期待されています。先生や先輩からいただいた厳しくも暖かな指導や、友人、同級生あるいは後輩達との共に励まし合いながらの切磋琢磨が皆さんを育ててくれました。真理探求に邁進した皆さんもいるでしょうし、基礎研究をもとに社会に還元できる研究に努力された皆さんもいます。真理探求の過程では、往々にして狭い専門分野に閉じこもってしまう場合もあります。しかし、本学は他には類を見ない多くの研究分野を有し、その上それらの分野が協業する多様な学際融合分野を持つ総合大学でもあります。そのような本学を修了する皆さんには、専門力のみならず、多様な経験に基づいて幅広い知識や教養、コミュニケーション能力なども身に付いているはずです。社会還元を目指した研究においても、産官の組織との共同研究も盛んで、多くの成果をあげてきている本学での研究を通して、新しい産業に繋がる本当のイノベーション創出の意味と実践を体感できたのではないのでしょうか。

本学は、昨年10月1日に、開学40周年を迎えました。本学の前身は1872年(明治5年)に明治政府によって我が国で最初の高等教育機関として創立された師範学校に遡ります。東京高等師範学校を経て東京教育大学に至る101年の長い伝統と実績を礎として、1973年(昭和48年)10月1日に従来の大学制度を大胆に組替えるべく「新構想大学」として創設されました。現在、改に「未来構想大学」という新しいコンセプトのもと、また研究型大学院大学として、「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材育成」を使命として、教育研究を推進しているところです。

皆さんは大学院を修了し、産業界、あるいは大学や研究所などでの新たな旅立ちを迎えます。その皆さんに、幾つかの言葉や考え方を贈ります。

最初は、本学の建学の理念から、「不断の改革」という言葉です。本学は「新構想大学」として、日本における高等教育に関わる教育、研究、大学運営の改革を進めてきました。「未来を予測する最善の方法はそれを創り出すことだ」という言葉があります。つまり、先駆性が、特に変化の激しい時代には、優位性を持った新たな価値を生み出すと考えられているからです。たとえば、教育と教員システムについて考えてみても、学群・学系システムとして「新構想大学」として船出し、やがて大学院重点化の時代には研究科を中心としたシステムに変わりました。研究型大学院大学として研究科を中心としたシステムは一定の機能を果たしてきましたが、本学はそこに留まってはいませんでした。最近になり、研究の強化と新しい教育システムを構築するために、教員組織としての系を創設し、系の運用が軌道に乗るにつれて教育については国際的な通用性のある学位プログラムシステムへの移行を始めました。こうした改革のキーワードは我々が創造する未来の視点です。つまり、**IMAGINE THE FUTURE.**です。ヒトと地球にとって豊かな未来を **imagine** し、未来を **create** していこうという視点です。本学を巣立つ皆さんも、社会の中での活動にあたって、必要な時には、過去のしがらみから離れて柔軟に、主体的に考え、躊躇せず改革・革新を進める勇気を持っていただきたいと思います。

次に、本学の使命から、「グローバル」という言葉の持つ意味について考えてみましょう。皆さんがこれから活躍されるのは、激動するグローバル社会です。グローバル社会は科学と技術の進歩の恩恵を受けた便利で快適な社会です。一方で、科学と技術の進歩は大きな問題も生じさせてきています。エネルギー・資源に関する問題、産業・経済の低迷と再活性化の問題、食料や少子高齢化の問題などの種々の問題です。このような問題や事態の打開を図るためには、問題解決の方策や新たな成長を生み出す努力が必要です。皆さんはそのためのイノベーションを創出する先導者です。グローバル社会に横たわる問題と問題解決を考える時、もう一つの重要な点は、いずれの問題も一つの国の努力で解決する問題ではなく、問題を地球規模で共有し、解決に向けた活路を地球と地球社会の一員としての自覚を持ちながら、見いだして行かなければならないということです。そのためには、地球に暮らす人たちの考え方、生活、文化を知り、既存の境界を越えて情報や想いを共有し、連携することが大切です。

このような観点から、我々には国際基準の中での活動が求められています。皆さんは、国際感覚が身につく環境で育ってきました。師範学校から東京高等師範学校に移りゆく中、25年に亘り校長を勤めた嘉納治五郎先生の精神と先生が開かれた諸外国への門戸は、「開かれた大学」を標榜する筑波大学でもしっかりと受け継がれ、門戸はますます大きく開いてきています。本学は国立大学では有数の留学生を迎え入れています。また、本学は5つの国・地域に7ヶ所の海外事務所を有し、55の国と地域及び国際連合大学と合計225件の交流協定を結んでおり、国際社会の中でも際立った教育研究組織です。加えて、本学を中核とする研究学園都市にもさまざまなことばと文化が行き交い、日常的に国際的な感覚を身につけることができる環境があります。皆さんは十分に自信を持ってグローバル社会に飛び出してください。

最後は、「コミュニケーション」についてです。本学を修了する皆さんの今後の活躍と挑戦を、社会は楽しみに待ち受けています。皆さんは、この緑にあふれた筑波大学キャンパスという環境の中で、各々の研究テーマについて深く追究しながら、皆さんの思いが詰まった何物にも代えがたい輝かしい成果を生み出されたことでしょうか。一方、社会に出てからの新しい場所では、楽しいこととともに、未知の体験や予想外の厳しさへの戸惑い、そして失敗もあるでしょう。困難な決断と選択をしばしば迫られ、対立や争いにつながる場合も少なくありません。これらを乗り越えるためには、合理的な思考の上に、失敗を恐れないチャレンジ精神や勇気、そして誠実さや思いやりなどが必要です。そして、さらに重要なものがコミュニケーションです。コミュニケーションは双方向性ですので、自主性、自立性とともに相手への思いやりや共感、チームワークを大切にする感性が重要です。国と国、あるいは人と人はすべて互いに「同じ」ではありません。「異なっている」はずです。「異なっている」が故に、個々のアイデンティティの確立が必要であり、コミュニケーションが重要です。友情は自分とは「異なっている」人とだからこそ成立するのではないのでしょうか。「同じ」ということと「理解する」ということは別です。お互いの尊敬と理解が強い友情や絆を育むものだと思います。逆に言えば、「人や社会は、皆互いに異なる」ということが、他者や他の社会を理解する前提だと考えられます。「異なる」ということは、多様性を生み出すためにも重要なポイントです。「異なる」に出会うことを恐れるよりは、「未知」に出会うことの喜びの方が大きいではありませんか。

最後になりますが、皆さんがそれぞれに新しい挑戦をすることが、「つくば」らしさを世界に発信することであり、皆さんに続く後輩たちの活動の幅を広げていきます。つくばの地を離れても、大学とともに歩んでいきましょう。社会から見た大学の価値は、卒業する皆さんの価値そのものです。

大学院修了生の皆さんの門出を祝し、これからの益々の発展と活躍を心より祈念し、私の学位記授与に対するお祝いの言葉といたします。

平成 26 年 3 月 25 日

筑波大学長 永田恭介